

論点に対する整理（議論の叩き台）

1. サンプル替えに伴う新旧接続について

1) 基幹統計調査で、サンプル替えを行なった際に採用されている新旧データ接続方法は、どのような方法か。

資料 3 1.標本交替。①そのまま接続、②過去値を補正し断層を解消、の 2 通り。

2) サンプル替えの影響をどのように計測するか。

定量的な検証に基づく結論を短期間で出すことができないため、今後の課題とする。なお、現時点の計測の候補としては資料 4 に掲げる方法がある。

3) 上記 1) の実態から、サンプル替えを行なった際に採用されている新旧データの標準的な接続方法はどのように整理されるか。

資料 3 1.標本交替。「①そのまま接続」が標準的。

4) 上記 3) で整理された接続方法について、それを行なう際に注意すべき事項はどのようなものか。

資料 3 1.標本交替。断層が過度に広がる前に標本を交替させることが望ましい。なお、標本交替の時点に関しては予め対外公表するとともに、過去に行なわれた標本交替の時点の情報もユーザーに提供されることが望ましい。

ユーザーニーズが強いものに関しては継続標本による参照値を作成することが期待される。

2. 母集団推計の際のベンチマーク更新に伴う新旧接続について
サンプル替えに伴う新旧接続の論点1) から4) と同様の論点

1) ベンチマーク更新を行なった際に採用されている接続方法。

資料3 2.ベンチマーク。①新ベンチマークによる数値（新基準による対象時点の値）を確定する。②その数値と旧ベンチマークによる数値（旧基準による対象時点の値）の間を滑らかに接続する形で過去値を遡及改訂し断層を解消する。

2) ベンチマーク更新の影響をどのように計測するか。

新ベンチマークによる値を、旧ベンチマークを出発点として推計していた従前の推計値と比較する。

3) 上記1) における標準的な方法。

資料3 2.ベンチマーク。3統計とも「上記2. 1) の手法」を採用するのが標準的。

4) 上記3) で整理された接続方法について、それを行なう際に注意すべき事項はどのようなものか。

資料3 2.ベンチマーク。全数調査などベンチマークとなるものが存在する場合はそれを利用して数値を確定するとともに、過去値の遡及改訂により新旧ベンチマークに起因する断層を解消することが望ましい。

上記の調整を行う場合、その内容を対外公表することが期待される。上記の調整を行わない場合、その事由を対外公表することが期待される*。

* 対象3統計は全て調整を行っているが、特別な事情がある場合には調整を行わないことも想定される。このため、そうした事例を取り扱う際の留意事項を整理したもの。